

◆地域活動

モズク養殖漁場探索(宮古地区)

宮古農林水産振興センター 吉田聡

1. 目的

宮古島市平良字久貝地先の特区第255号において、モズクひび建て式養殖業が行われているが、近年、同海域で潮流変化の影響と思われる海底砂の移動が起こり、藻場が砂に覆われ、養殖モズクの芽出しが行われる苗床が消失している。

今後、安定した養殖を継続するためには、苗床の確保が重要であることから、新たな苗床の探索を行う。

2. 方法

宮古島漁協久松もずく生産部会のモズク種苗供給施設においてモズク網に種付けを行い、宮古島市平良字久貝地先の特区第255号(モズクひび建て式養殖業)および共同漁業第22号(二、へ、ト、チの各点を順次結んだ線で囲まれた区域)の試験区において、芽出しとその後の生長について試験を行った。

試験はモズク網(1m×20m)を50枚用い、特区内3カ所、試験区に4ヶ所の計7カ所に展張し、芽だしの確認を行った。また、管理は、宮古島漁協久松もずく生産部会の漁業者の協力の下、宮古農林水産振興センター農林水産整備課の水産業普及指導員が直接行った。

<試験経緯>

12月13日 No.1~4に養殖網を展張。

12月21日 No.5、6に養殖網を展張。

12月26日 生育状況確認。

1月 8日 No.7に養殖網を展張。

1月23、24日、2月14日 生育状況確認。

3. 結果

試験区No.1~7の全のポイントで海底に海草類の生育が確認されたが、No.1,2は濁りが強く、No.4は濁りが少なく、No.5,6は中程度の濁りがある場所であった。No.3,7は透明度が高かった。

また、No.1,2,5,6については鉄筋打設作業の際に海底に堆積しているシルトが舞い上がる状況であった。

12月26日の確認時にはNo.1~4で芽出しを確認した。1月23、24日の確認ではNo.5,6でも芽出しを確認したが、No.1~4では雑藻の生育が確認され、No.2は流れ藻の付着が多くNo.3は雑藻が繁茂していた。

2月14日の確認ではNo.6の生育が最も良好で養殖網から均一に芽出ししていた。続いてNo.5が良好で、No.3はモズクと同程度の雑藻が生育し、No.4は雑藻が繁茂していた。No.1は種付きに偏りがあったのか、モズクが生えていない場所が見られた。

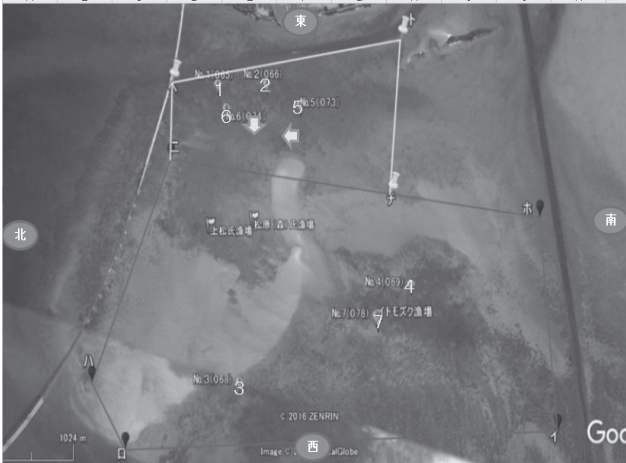
4. 考察

今回の試験では全試験区で芽出しを確認することができた。当初は濁りの少ないNo.3,7での成功を予期していたが、予想に反し、濁りのあったNo.6の芽出しが良く、雑藻もほとんど付くことがなく良好な結果となった。

これは、同ポイントで濁りがあったものの、航路方面からの適度な潮流があったことから、汚れが網に堆積することなく良好な結果につながったと思われる。

また、今回の試験結果からNo.5から北側、No.6から西側が新たな苗床として使える可能性が示唆された。

<12月13日>



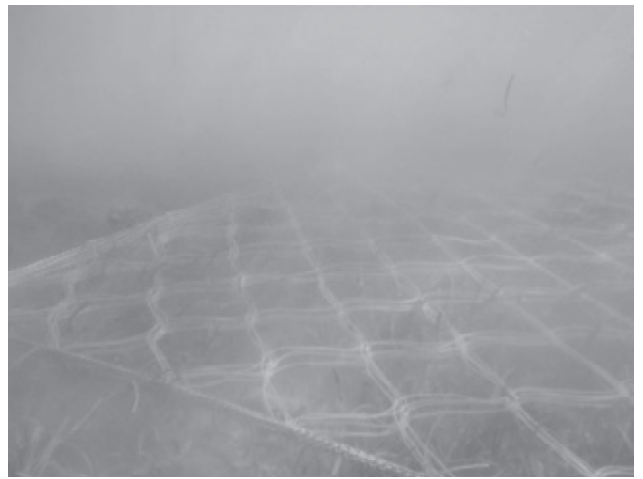
苗床試験概要図（赤：特区、黄：試験区）



No. 1



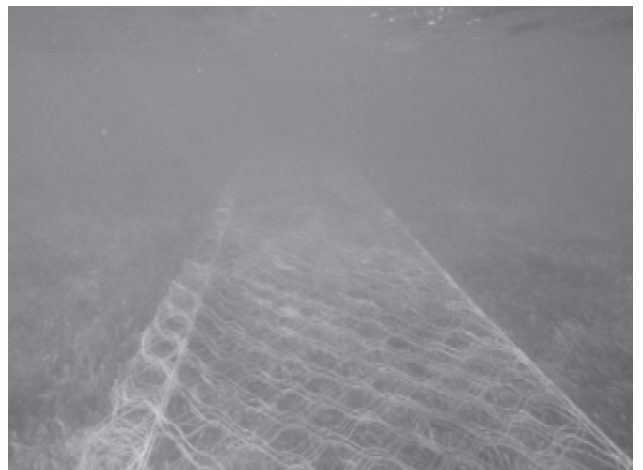
苗床に堆積した砂



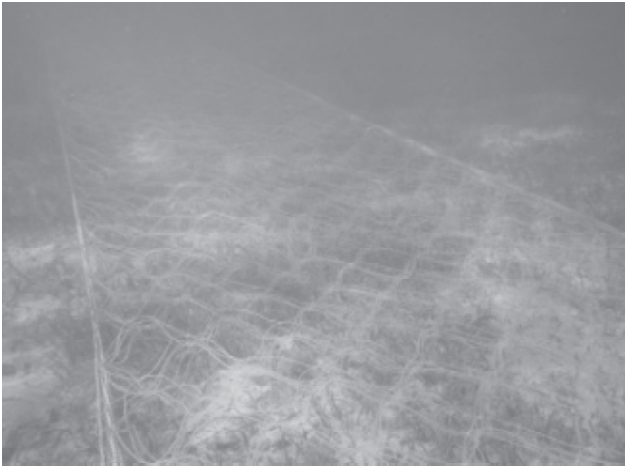
No. 2



試験網設置作業

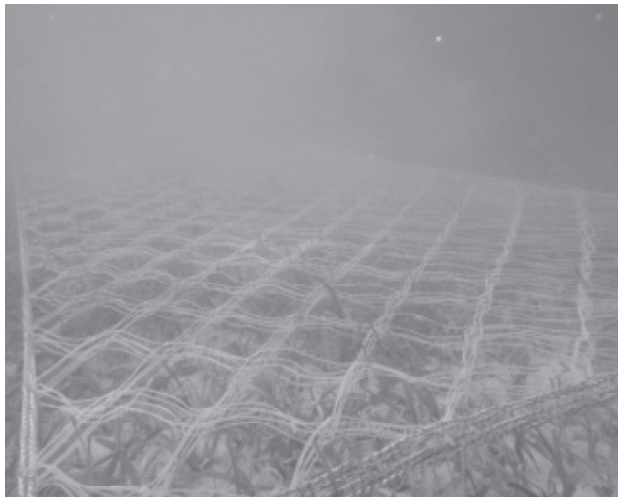


No. 3



No. 4

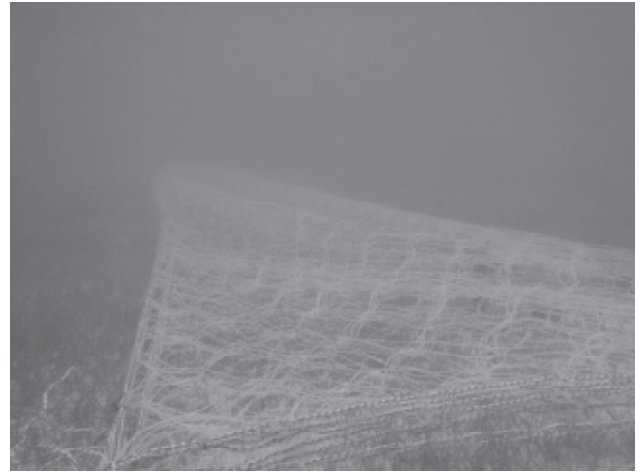
<12月21日>



No. 5



No. 6

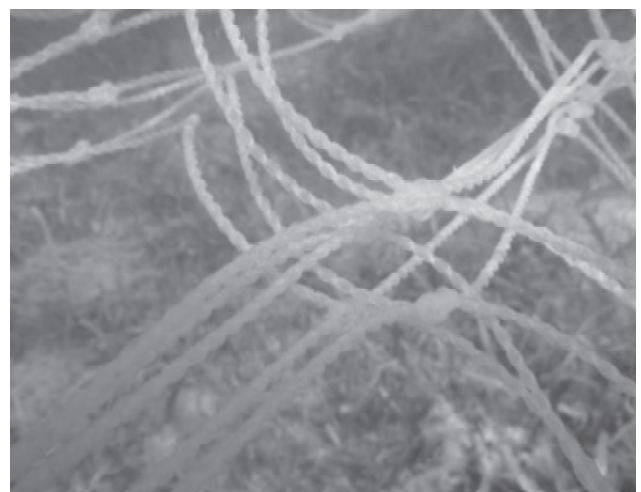


No. 7

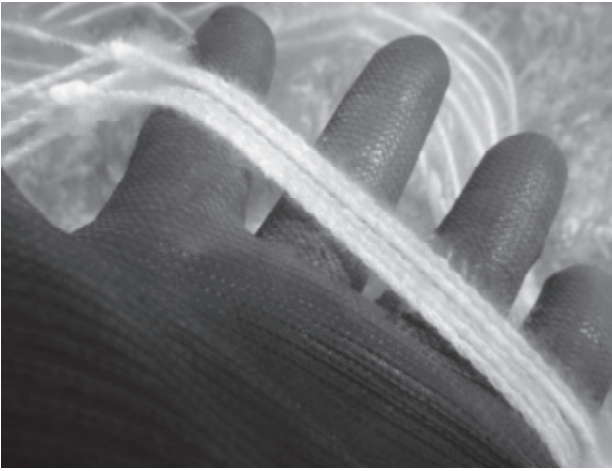
<12月26日>



No. 1



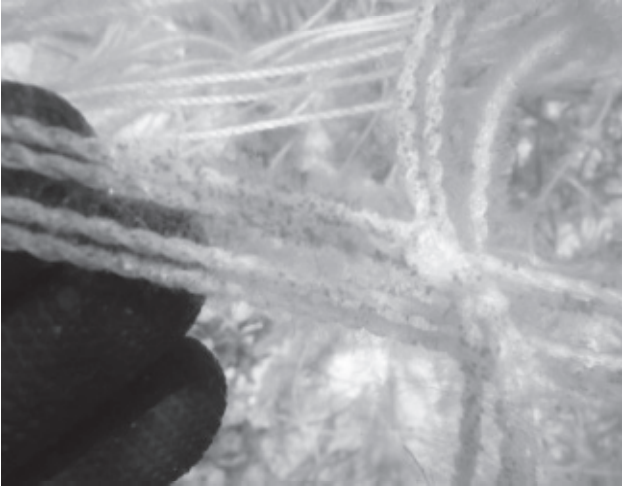
No. 2



No. 3



No. 2

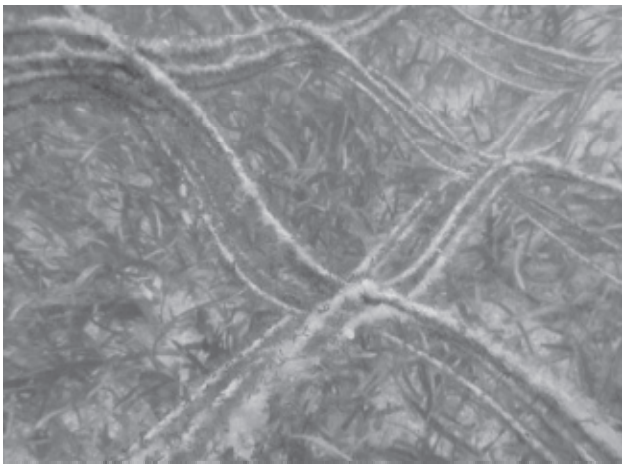


No. 4

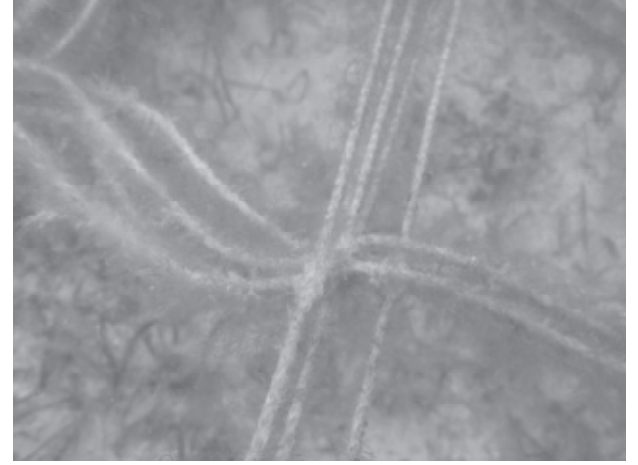


No. 3

<1月23、24日>



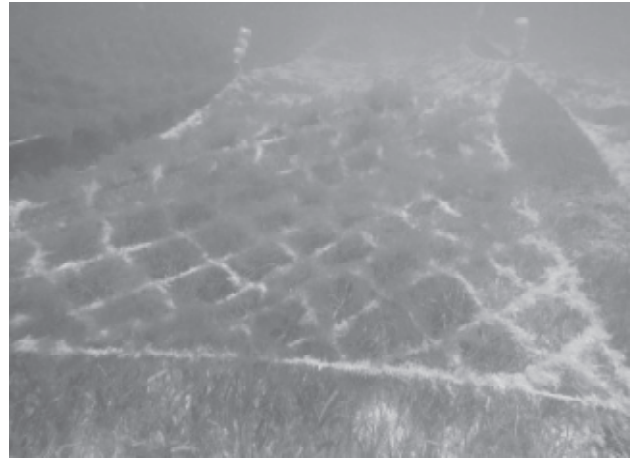
No. 1



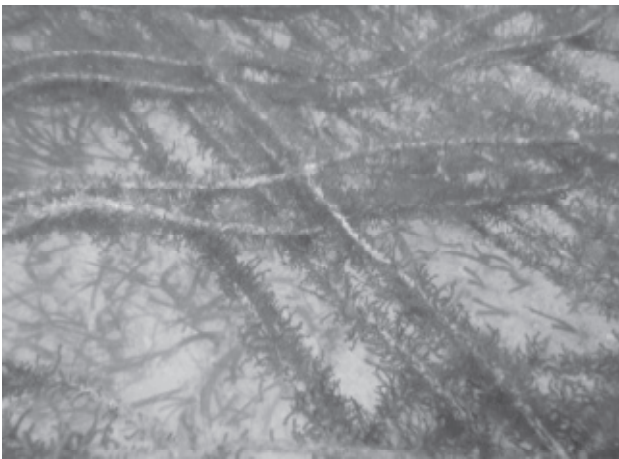
No. 4



No. 5



No. 3

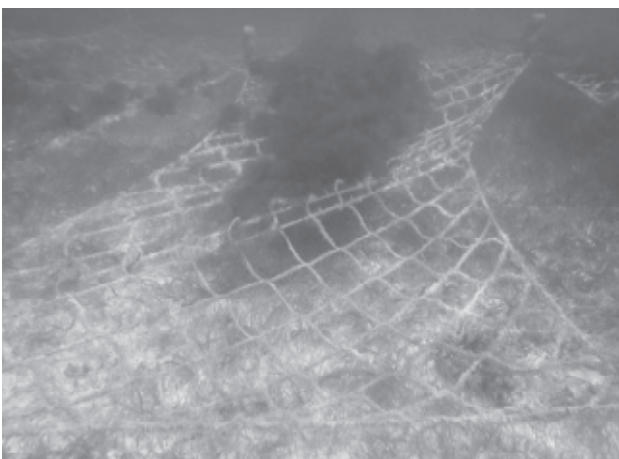


No. 6

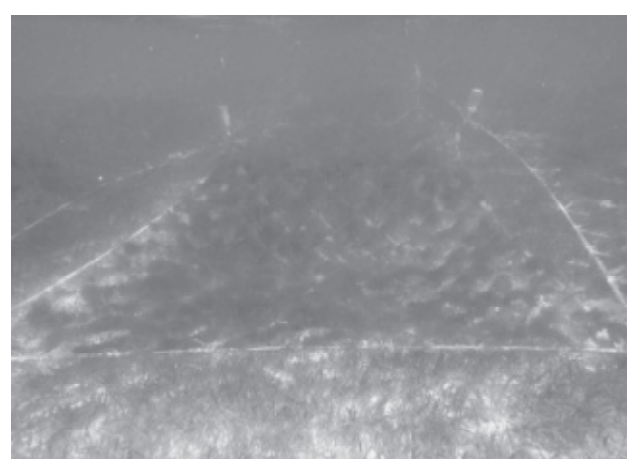


No. 4

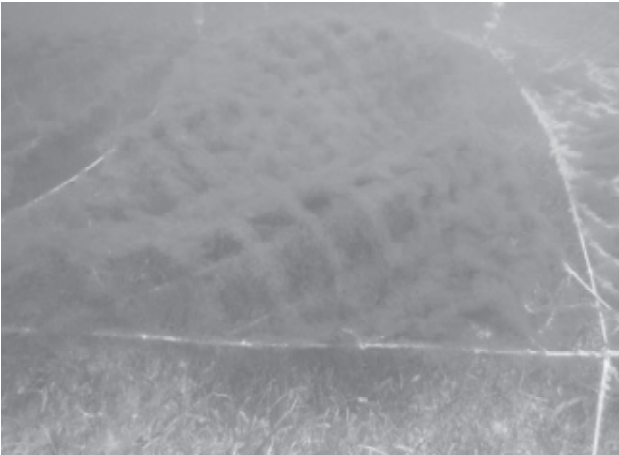
<2月14日>



No. 1



No. 5



No. 6



No. 7 -1



No. 7 -2